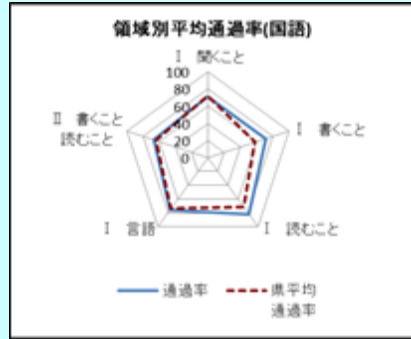


指導方法等の改善計画について (国語科)

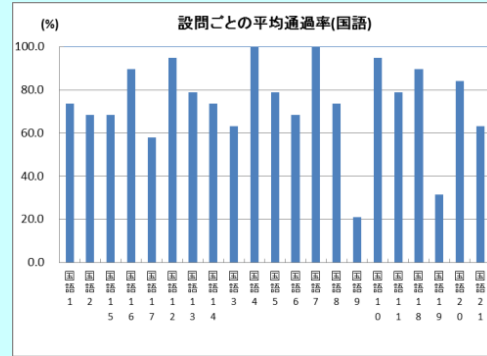
安芸太田町立加計中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 73.9%, 県 69.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

全体的な傾向について

○国語科の結果において、タイプ I は 75.5%、タイプ II は 67.1%の通過率となっている。特にタイプ I 「読むこと」82.5%と高い通過率であった。一方、タイプ I 「聞くこと 71.1%、書くこと 71.9%」タイプ II 「書くこと読むこと」 67.1%であり、他領域に比べて低い傾向がみられる。

○昨年度の取組の成果

昨年度の「書くこと」において「伝えたい事実の明確な記述」が、53.3%であり、資料の内容から伝えたい事実について根拠を明確にして書くことに課題があった。今年度の「書くこと」において「伝えたい事実の明確な記述」は、68.4%と改善が見られる。

重点課題

【課題1】

タイプIIの「書くこと読むこと」において「要旨の把握」が、31.6%と低い通過率である。目的に応じて資料から適切な情報を取り出すことに課題がある。

【課題2】

タイプIの「書くこと」において「叙述の仕方の確認」が、57.9%と低い通過率である。書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章に直すことに課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

「内容や用紙を的確にとらえる能力」とは、文章全体を概括したり細部の表現に注意しながら読み、内容について自分の考えを持つことである。大まかに内容をつかんだり、人に紹介したりするなど、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすることが求められる。よって、授業の中で、文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むことを意識した展開を行う。

【課題2】

「読みやすく分かりやすい文章にする」ためには、伝えたい事項等にふさわしい語句や文の使い方になっているか、段落相互の関係は適切か、全体と部分の関係はどのようになっているかなどについて検討させることが重要である。国語の授業はもちろん、日常生活の中で説明や記録の文章を分かりやすく書くために図表を用いるなどの術も身に付けさせたい。

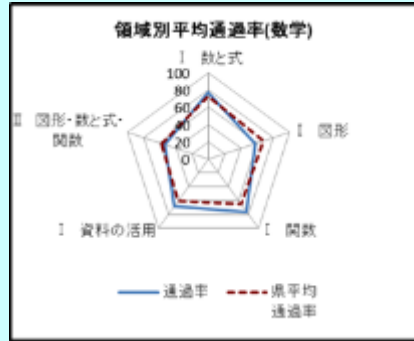
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1年生, 2年生 図表と本文を関連させて説明文を読む	1年生 説明文の要旨をまとめる			1年生 H29 基礎・基本	1・2年生 学年末テスト
目標値						60%	70%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生 写真を紹介する文を推敲する		1年生 鑑賞文を推敲する		1年生 H29 基礎・基本	1・2年生 学年末テスト
目標値						70%	80%
実施後数値							

指導方法等の改善計画について [数学科]

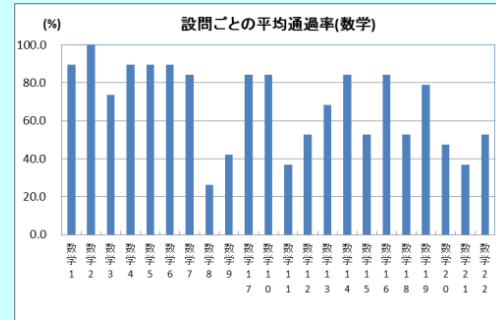
安芸太田町立加計 中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 68.2%, 県 66.9%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

タイプⅠは72.4%、タイプⅡは53.7%の通過率で、基本的な計算はおおむね定着している。昨年度の課題であった文字式の表し方、関数の分野は大きく改善した。しかし、自然数の意味や、文字式の読み取り、事象からの比例・反比例の判断は今年度も課題である。

○昨年度の課題への取組の成果

文字式の表し方、関数分野のグラフ上の点の意味などは、短期間の目標を決めて、毎日繰り返し小テストを行った結果、改善することができた。そのたの定着率が悪い問題も同様の方法で取組ませた。また、習熟度別の少人数指導を活用し、より丁寧な個別指導を行ったことも成果につながったと考える。

重点課題

【課題1】

「自然数の意味」の定着率26.3%と低い。自然数の意味を正しく理解していない生徒が多い。数学の用語を正しい習得できていないことが課題である。

【課題2】

「円錐と円柱の体積の関係」の通過率が36.8%と低い。錐体の体積の公式を正しく覚えている生徒が少なかった。錐体と柱体の体積の関係を、正しく体得できていないことが課題である。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

自然数の0を含む生徒(5名)には自然数が正の整数であることを再度指導する。また、その他の生徒には、整数、正の数、負の数の用語を再度指導する。

【課題2】

300立方センチメートルと解答する生徒が(7名)には円柱と円錐の体積の関係に係る実物の実験を行い、再度公式を確認させる。また、その他の生徒には、実験はもちろんだが小テストを繰り返し行い定着を図る。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生・中間テスト		1年生・期末テスト			1年基礎基本類似問題
目標値		50%		70%			80%
実施後数値							

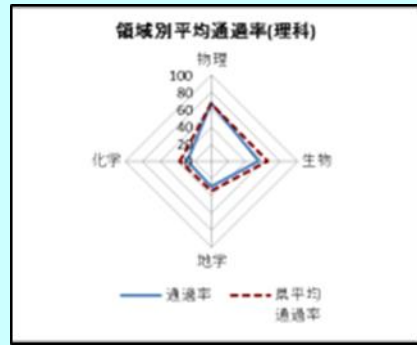
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1.2年生・期末テスト		2年全国類似問題	1年基礎基本過去問
目標値				70%		70%	80b%
実施後数値							

指導方法等の改善計画について [理科]

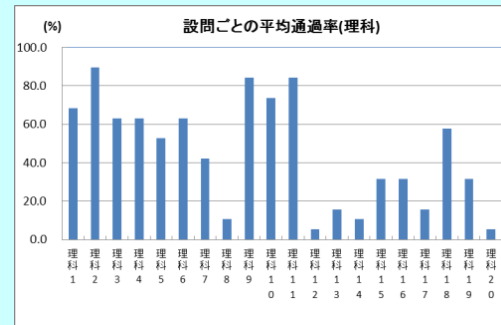
安芸太田町立加計 中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 45.0%, 県 50.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について
 タイプⅠは49.6%, タイプⅡは38.2%の通過率で, 基本的な内容が十分身に付いていない傾向が見られた。生徒質問紙からも理科の学習への関心が低い状況となった。今回の調査内容において最も通過率が低かった設問は, 大問5(2) 鉱物の名称と大問8(2) 状態変化のグラフ(いずれも通過率:5.3%)であり, 与えられた情報から鉱物を特定していく力や条件を変化させたときの実験結果を推定していく力に課題が見られた。

○昨年度の課題への取組の成果
 昨年度の課題である日常生活での事象を既習内容等を活用して思考することについては, 授業において学習した内容が日常生活とつながっていることをなるべく多く挙げて示したことで, 科学的用語を適切に用いた説明をできる生徒が増えてきた。

重点課題

【課題1】

昨年度に引き続き, 科学的用語の多くを単に暗記し活用しているため, それらを正しく捉え, 自然事象と関連付けて考えることが十分できていない。また, 基礎的・基本的な学習内容が十分身に付いていない。

【課題2】

目的意識をもった観察や実験になっていないことで, 結果を踏まえた考察が十分に書けない状況がある。そのため, 条件を変えたときに, 結果の推定が十分できない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

観察・実験をなるべく多く取り入れ, 事象への興味・関心を高めるとともに, 科学的用語についてもその中で関連付けて理解させていきたい。さらに, 科学的用語の適切な活用や学習したことを確認していくための確認問題を行うことで定着を図っていきたい。

【課題2】

観察・実験前の段階で, 事象に対する興味・関心に加え, 調べてみたいと感じるような課題設定を行ってほしい。また, 予想をしっかりと持たせ, 結果を踏まえた考察指導をいねいに行ってほしい。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1年生・期末テスト			2年生学年末テスト
目標値				70%			70%
実施後数値							

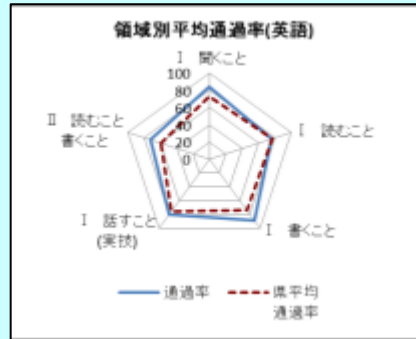
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1年生・期末テスト			2年生学年末テスト
目標値				70%			70%
実施後数値							

指導方法等の改善計画について [英語科]

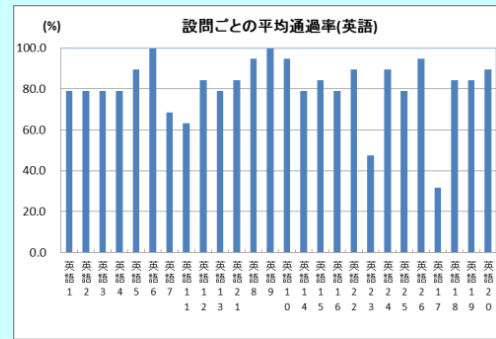
安芸太田町立加計中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 81.0%, 県 72.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向について
英語科の結果において、タイプ I は 82.5%、タイプ II は 72.4%の通過率となっている。この結果から基礎的・基本的な内容については概ね定着が図られていると考えられる。また、読解や、表現など活用においては、無解答率も低く、既習の知識を使って答えようという意欲がみられる。
- 昨年度の取組の成果
昨年度は会話の流れから、文と文のつながりを考えて、正しい文構造で書くことに課題があった(通過率 26.7%)。そこで、疑問詞疑問文などを用いてのやりとりなどの対話活動を多く取り入れた。その結果として、通過率 84.2%と向上した。

重点課題

- 【課題 1】
タイプ II の「読むこと書くこと」において根拠となる英文の読み取りに課題がある(通過率 31.6%)。
- 【課題 2】
タイプ I の「話すこと」における What is Takuya doing? の問いに対する正しい描写に課題がある(通過率 47.4%)。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

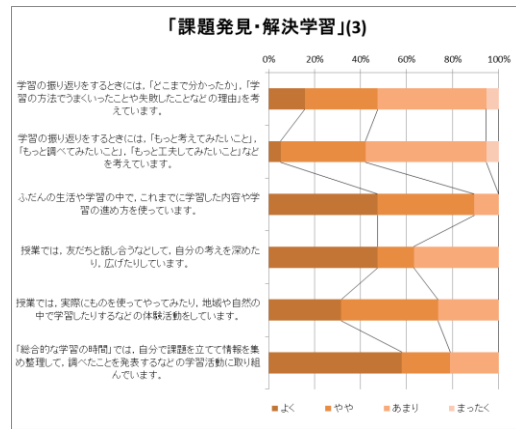
- 【課題 1】
まとまった英文を読んで、意味の理解だけでなく、理由や考えを持って質問に答えさせる活動を日常的に取り入れる。そして、グラフや表を活用して英文を読みとる練習を行う。
- 【課題 2】
Yes, No で答える疑問文と疑問詞疑問文の練習を繰り返し、応答に慣れさせる。また、基本文に対する機械的応答だけでなく、状況に応じて情報をつけ加えて答えたり、写真やイラストを見て場面を描写したりする活動を多く取り入れる。特に ALT との授業において、伝える工夫を取り入れた言語活動を行う。

【課題 1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2年「基礎・基本」 類似問題		1年 H29「基礎・基本」	
目標値				65%		60%	
実施後数値							

【課題 2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2年プレゼンテーション発表	2年スピーキング実技テスト	2年プレゼンテーション発表	
目標値				60%	65%	60%	
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

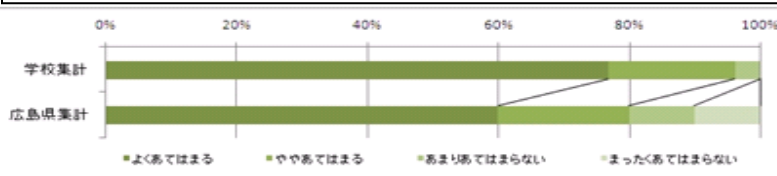
(1) 生活・学習



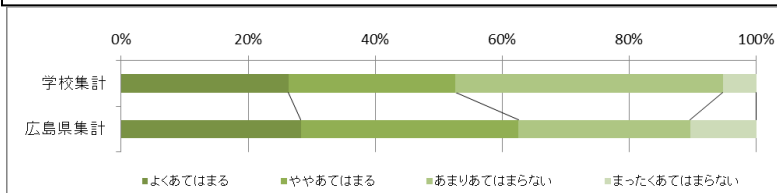
生徒の解答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
学習動機・学習意欲の領域で、「学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。」の項目において、否定的評価が57.9%であった。	・授業の中で生徒が取り組む課題は、身近な題材で主体的に考え、活動できるものを仕組む。 ・各教科の振り返りシートの項目を工夫したり、家庭での自主学習において学習したことから考えまとめたりする勉強方法を取り入れたりする。	2	否定的評価 45% 以下	生徒質問紙	2月		

(2) 教科

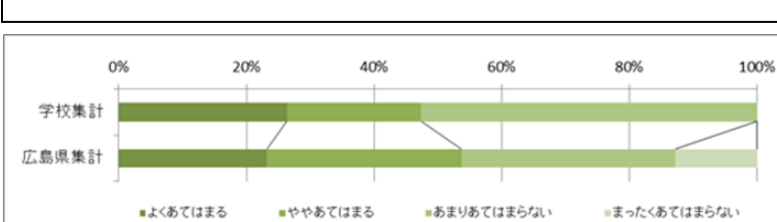
国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



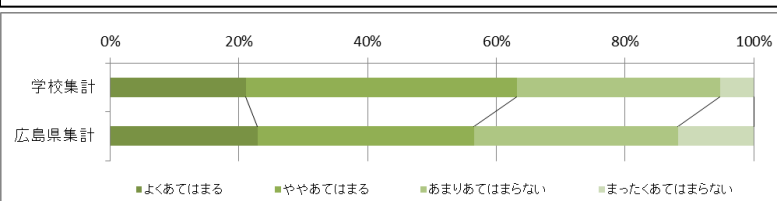
数学の授業では、普段の生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモをとったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	左記の設問項目において、否定的評価が36.9%と比較的高い数値であった。授業のめあてに対する振り返りの充実を図る必要がある。	毎時間の振り返りで既習事項を用いてのまとめの活動や日常生活を意識した発問を繰り返し行い、意識させていく。	2	否定的評価 25% 以下	生徒質問紙	2月		
数学	左記の設問項目において、否定的評価が47.4%と高く、普段の生活と関連付けて考えることができていない生徒が多いことが伺える。	身近な課題設定や、生徒からの疑問を取り上げ、自分たちの生活に関連付けをさせるなどの工夫を行う。授業での振り返りを大切に、定着へと繋げていく。	2	否定的評価 30% 以下	生徒質問紙	2月		
理科	左記の項目において、肯定的評価が47.4%とやや低く、自分の考えを説明したり発表したりすることに自信を持っていない生徒が多いことが伺える。	毎時間の振り返りや考察の中で自分の言葉でまとめさせ、また、家庭学習でも既習事項を図やグラフを用いてまとめさせることで、発表や説明に繋げていく。	2	肯定的評価 60% 以上	生徒質問紙	2月		
英語	左記の項目において、否定的評価が36.9%と比較的高かった。聞いたり読んだりした題材について話したり書いたりする活動に繋げる必要がある。	スピーチなどを行う際は、質問させたりリテリングさせたりすることで活動の充実を図っていく。	2	否定的評価 25% 以下	生徒質問紙	2月		